

令和元年度 第1回学校訪問のまとめ

竹田教育事務所

【第1回学校訪問の目的等】

目的	『芯の通った学校組織』を基盤とした教育水準の向上を目指し、学校マネジメントの質向上と授業力の向上を中心に、学校が抱えている課題を探り、その解決のために必要な指導・支援を行う。
方法	各学校の年度を跨いだ喫緊の課題に対する学校マネジメントの状況や、「新大分スタンダード」による授業改善について協議を行う。
期間	令和元年5月13日（月）～7月5日（金）

1 把握した状況

(1) 「学校マネジメント4つの観点」における事務所評価

観点	S評価	A評価	B評価	A評価以上の割合
観点Ⅰ 「取組指標等の設定」	20校	16校	0校	36/36校 (100%)
観点Ⅱ 「検証・改善サイクル」	10校	26校	0校	36/36校 (100%)
観点Ⅲ 「目標の連動」	21校	15校	0校	36/36校 (100%)
観点Ⅳ 「チーム学校」	19校	17校	0校	36/36校 (100%)

(2) 学校マネジメントの深化

①大分県版「チーム学校」実現プランの全職員への理解促進について

『大分県版「チーム学校」実現プラン』及び『プラン最終年に向けた取組方針』について研修や会議で理解を図る取組の実施	33/36校 (91.7%)
--	----------------

※年度当初に研修等で理解促進の取組を実施している学校がほとんどである。

②「学校マネジメント4つの観点」に基づく学校マネジメントの深化

観点Ⅰ：学校評価4点セットの作成過程について（誰が、いつ、どのようにして作成したか？）

校長が目標を示し、分掌会議で取組方を練り、企画会議で検討・作成	1校
校長が原案を作成し、企画会議で提案、各分掌ごとに検討したものを、教務主任がとりまとめて企画会議で諮った	1校
校長または教頭が原案を作成し企画会議で諮った	7校
校長または教頭が原案を作成し企画会議で諮ったあと、学年会および職員会議にて協議した	1校
管理職が作成→教務主任・研究主任に相談→全職員で共有	1校
教務主任が原案を作成し企画会議で諮った	4校
各分掌主任等が原案を作成し、教務主任がとりまとめて企画会議で諮った	21校

観点Ⅱ：学校評価4点セットの検証・改善サイクルの回数（取組内容による最大の回数）

学期に1回	6校	学期に2回	9校	年間5回	1校
2月に1回以上	1校	月に1回以上	18校	週に1回	1校

※学期に1回の学校には、学校訪問の中で更なる短期の検証改善サイクルの検討を指導。

観点Ⅲ：主要主任の一般教員の目標達成に向けた進捗管理について

一般教員の「目標設定」についてアドバイスできている	31/36校 (86.1%)
一般教員の「日常の取組状況」についてアドバイスできている	36/36校 (100%)

観点Ⅳ：少数職種職員や専門スタッフ等の活用、運営や組織の状況について

①事務職員は学校運営にかかわることができている	14校
②教頭、主幹教諭、教務主任等、教諭との業務分担が図られている	36校
③SC, SSW等は、児童生徒や保護者からの要請があれば招聘	27校
④SC, SSW等は、定期アンケートや聴取り調査から教師が判断して招聘	27校
⑤SC, SSW等には、定期的に学校に訪問し、児童生徒の様子を見てもらう	27校
⑥SC, SSW等は、定期的に対策委員会や職員研修にも招聘し、活用	11校
⑦その他 SCは定期的（毎週月曜午後）に訪問し、子どもの悩みを聞いている。SSWは、児童や保護者の要請があれば訪問	1校

※⑥が少なく課題であるが、そのほとんどが「定期的に職員研修」の部分での活用ができていない。「定期的に対策委員会に招聘し、活用」のない学校については、定期的な活用を要請。

③「地域とともにある学校」への転換促進

学校運営協議会（家庭や地域）と学校の重点目標を共有できている	36/36校 (100%)
学校運営協議会と「協育」ネットワークが連携した学校支援活動を実施（予定）	27/36校 (75.0%)
地域の人材を活用した取組（授業や学校行事等）が位置付いている	36/36校 (100%)
4点セットにおける家庭・地域の取組（設定）状況	36/36校 (100%)

※学校運営協議会と「協育」ネットワークが連携について、学校支援活動を実施している学校の多くは「放課後チャレンジ教室（小学校）」と考える。管内で人材を紹介して学校に派遣する「学校支援機能」がどれくらい整備されているのかを把握して、取組を進めていく必要がある。

④マネジメントツールを活用した教育課程レベルでの校種間連携の推進

（小学校）

幼稚園（保育園・こども園等）⇔小学校で4点セットを共有	9/23校 (39.1%)
スタートカリキュラムを作成している	22/23校 (95.7%)
スタートカリキュラムを近隣の幼稚園（保育園・こども園等）と共有	12/23校 (52.2%)
校種間（保幼小・小中）や他校種（特別支援学校等）との活動がある	23/23校 (100%)
他の小学校との連携（小小連携）した活動がある	17/23校 (73.9%)

（中学校）

中学校⇔小学校で4点セットが共有できている	12/13校 (92.3%)
スタートプログラム等の中1ギャップに対応したカリキュラム等の作成	8/13校 (61.5%)
中1ギャップに対応したカリキュラム等の共有	8/13校 (61.5%)
校種間（小中・中高）や他校種（特別支援学校等）との活動がある	13/13校 (100%)

※中学校⇔小学校における4点セットの共有については、ほとんどの学校でできている。

(3) 授業改善の徹底

①授業改善の取組を活かしたカリキュラム・マネジメントの推進

学力向上プランの年度を跨ぐ検証・改善を実施	36/36校 (100%)
生活科や総合の時間を中心にした教科横断的な単元配列表の作成	36/36校 (100%)
教科横断的な単元配列表の年度を跨ぐ検証・改善の実施	26/36校 (72.2%)

※教科横断的な単元配列表の年度を跨ぐ検証・改善の実施については、できていない学校に対しては、今年度取組を進めていく中での検証改善について指導。

②特別支援教育の視点からの授業改善（「個別の指導計画」作成率向上の取組）

通常学級における「個別の指導計画」の作成	22/36校 (61.1%)
「個別の指導計画」を「次学年」や「校種間」の引継ぎ等に活用	35/36校 (97.2%)

※通常学級における「個別の指導計画」の作成については、年度当初で新規に作成する児童生徒が在籍していることもあり、14校で新規作成中。

(4) 体力向上の推進と健康課題への対応

①運動の習慣化・日常化に向けた組織的取組の推進

体力向上プランの年度を跨ぐ検証・改善を実施している	36/36校 (100%)
「一校一実践」の見直し・改善等を実施している	36/36校 (100%)
DE（低体力）層への支援を実施（予定）している	33/36校 (91.7%)
課題のある項目を中心とした体力テストの項目を2回以上実施	28/36校 (77.8%)
体力テストの項目データを検証・改善に活用している	29/36校 (80.6%)

※「一校一実践」については、大幅な見直し、改善は少ないが、児童生徒の課題に即した見直し・改善が実施されている。「運動の習慣・日常化に向けた」という視点はまだまだである。

※DE（低体力）層への支援を実施については、多くの学校でUDの視点で「一校一実践」に取組み、その中で実施している場合が多い。実施していない学校にはDE（低体力）層がない学校もあるが、授業改善の視点「習熟の程度に応じた指導」と同様、DE（低体力）層の児童生徒に対する手立て等の工夫について、全小中学校に指導助言していく。

(5) いじめ・不登校対策等の推進

いじめ対策・不登校児童生徒支援プランの年度を跨ぐ検証・改善を実施	36/36校 (100%)
いじめの定義、いじめ解消の定義について、確認、理解できている	36/36校 (100%)
教育相談コーディネーターを中心とした組織的な取組（体制）が確立	36/36校 (100%)
SC、SSW等の校内委員会への参加や研修での活用を実施（予定）	33/36校 (91.7%)

2 把握した事項の課題を踏まえた取組

(1) 管内指導主事等連絡会議、学校教育課長会議で第1回学校訪問の総括を行い、情報の共有。
○実施日：7月26日（金）

(2) 主要主任（教務主任・研究主任等）を対象としたミドルリーダー訪問を実施。

①目的：管内小・中学校の教務主任（主幹教諭）、研究主任等のミドルリーダーを対象として、第1回学校訪問で協議し把握した事項やお願いした内容をもとに、目標達成マネジメントツールおよび授業改善等について再度協議を行い、「芯の通った学校組織」を基盤とした教育水準の向上を図る。

②実施期間及び時間

◇令和元年7月22日（月）～8月28日（水） 各学校1時間程度

③協議内容

◇「学校マネジメント4つの観点」における観点Ⅲのミドルリーダーの取組状況について

- ・「学校の重点目標、分掌等目標、自己目標の連動について、目標設定時・進捗管理等において主要主任が適時適切に指導助言を行う」ことについて、実際どういう場面で、どのような指導助言をしてきたかを把握し、それに対して指導助言する。

◇「学校評価の4点セット」について

- ・第1回学校訪問で協議した事項
- ・前半の「検証・改善」の計画及び状況について

◇学力調査結果の分析及び授業改善について

- ・ミドルリーダーを中心とした学力調査結果の分析及び授業改善について確認し、指導。

◇その他

- ・中学校においては「3つの提言」取組状況について
- ・各種プランについて
- ・個別の指導計画（通常学級）の作成数について
- ・その他各学校毎の課題等について協議する。

(3) 授業改善、児童生徒の状況について課題のある学校及び3つの提言推進校を中心に、以下の指導支援を実施（予定）

○授業観察による児童生徒の状況把握、対応策等の指導助言

○授業改善への指導支援

- ・「3つの提言」推進重点校の取組支援
- ・数学科指導力強化巡回指導による指導支援
- ・学力向上支援教員・習熟度別指導推進教員の公開授業等の指導支援
- ・市教振公開授業等指導支援
- ・初任者授業研究等指導支援

○英語科指導力向上に係る指導支援

○日常の授業改善・校内研修会に係る指導支援

○校内研修会等の講師派遣

○竹田教育事務所個別相談会、学校マネジメントに関する相談（窓口）の実施